ISSN 2186-9650

国立国際医療研究センター
国際医療協力局

NEWSLETTER

明日の国際保健医療協力 magazine summer 2013

特集

5S

～整理・整頓で幸せになる！～

NCGM 国際医療協力局　NEW TOPICS 3

5S　整理・整頓で幸せになる！ 4

5SのS 6

日本発、世界で生まれる新しい価値 7

世界に広がる5S
アフリカの病院が変わった！ 8

みんなで少しずつだから頑張れる！
アフリカで見つけた5Sの工夫 18

ニッポンに学びにきました。
アフリカからの研修員のための5S研修 19

グローバルヘルス・カフェ
CAFE WORLD 20

海外からの便り 22

ご寄附のお願い 23

EVENT information 24

表紙：マダガスカル共和国
病院の庭にある5Sの木

今年も『グローバルフェスタ JAPAN2013』に出展します

2013 年 10 月 5 日 (土) ・ 6 日 (日)
日比谷公園（東京都千代田区）
入場無料
詳しくは公式 HP へ
www.gfjapan.com

NCGM 国際医療協力局は、10 月 5 日 (土)・6 日 (日) に日比谷公園にて開催される国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN2013」に出展します。

トークショーや音楽ライブをはじめ、多国籍のフードなども楽しめます。昨年は 270 以上の団体が参加し、10 万人の来場者で賑わいました。

国際医療協力局のブースでは、開発途上国での活動を紹介する企画を準備中です。皆様のご来場をお待ちしています！

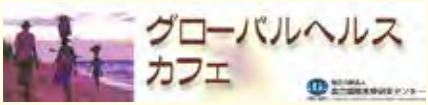
NCGM 国際医療協力局 **NEW TOPICS**

ラジオ番組『グローバルヘルス・カフェ』オンデマンド配信中

NCGM 国際医療協力局が企画するラジオ番組『グローバルヘルス・カフェ』（ラジオ NIKKEI）はもうお聴きいただけましたか？

コーヒーの香りが漂う、とあるカフェを舞台に、世界の健康問題についてマスターと常連客が語り合います。番組公式 HP では、第 1 回からオンデマンドでいつでもお聴きいただけます。

詳しくは HP へ
www.ncgm.go.jp/kyokuhp/



第 1 回「命が生まれる時」
第 2 回「ワクチン　～命を守るクスリ」
第 3 回「国づくりは、人づくり」
第 4 回「整理・整頓で幸せになる！」
レギュラー出演：
明石 秀親（医師・NCGM 国際医療協力局の専門家）
香月よう子（フリーアナウンサー）
第 5 回は 10 月放送予定です。
お楽しみに！

5S

整理・整頓で幸せになる！

私たちが小さい頃から家庭や学校で習慣にするようにと繰り返し教えられてきた「整理・整頓」。身の回りをきちんときれいに片付ける、という日常生活の基本です。
実はこの基本が、職場などで導入される経営管理手法の１つであることをご存知でしょうか。そして、日本から遠く離れた開発途上国の多くの医療現場で広がりを見せていることをご存知でしょうか。
日本では当たり前に感じられる「整理・整頓」が、新鮮な価値観として世界各地で取り入れられ、たくさんの人を笑顔にしています。

5S ってなんだろう？

5Sは、安全できれいな仕事環境を作り出し、業務の効率を高める活動のこと。整理（Seiri）、整頓（Seiton）、清掃（Seisou）、清潔（Seiketsu）、しつけ（Sitsuke）の５つの用語の頭文字から「5S（ゴエス）」と呼ばれています。

5Sの効果は、単に周囲が片付くだけというものではありません。働きやすくなり、仕事の効率が上がるほか、働く人のやる気を引き出したり、お客様（サービスを受ける側の人）の満足度を高めたりする効果も生まれます。

5S

整理 Seiri

整頓 Seiton

清掃 Seisou

清潔 Seiketsu

しつけ Sitsuke

5S は日本で生まれたってホント？

5Sは、日本の製造業がモノづくりの過程でムダやミスのない、効率の良い仕事の仕組みを作る目的で生み出した経営管理手法です。

5Sを徹底して繰り返し業務改善を行うという手法の基本概念は、トヨタ自動車の生産方式として知られています。経営陣から指示されるのではなく、現場の作業者が自発的に知恵を出し合ってボトムアップで問題解決を図っていくことに特徴があります。今では日本国内だけでなく、海外でも「5S-KAIZEN」と表記されて広く普及しています。

5Sのイロハ

日本では「断捨離」や「収納テク」「片付け術」など上手な整理・整頓の仕方に日常的に高い関心が寄せられています。５Ｓは日本発の経営管理手法の１つですが、製造業だけでなく、多様な業種の企業、病院、学校、家庭などさまざまな環境で活用できるヒントがいっぱい詰まっています。

５Ｓの出発点

整理 Seiri

必要なモノと不要なモノを区別します。持っているモノ全体を把握して「見える化」し、不要なモノは廃棄します。

↓

整頓 Seiton

必要なモノがいつでもすぐに取り出せるように、きちんと見つけやすく配置します。

↓

清掃 Seisou

きちんと掃除します。ごみやホコリがなく、使いたいモノがいつでもすぐに使える状態を維持します。

↓

清潔 Seiketsu

整理・整頓・清掃を定期的に行います。よく片付いたきれいな環境を維持します。

↓

しつけ Sitsuke

清潔を保つために決めたことをきちんと守って実践していけるように訓練します。決めたことに問題点があれば、どんどん改善していきます。

５Ｓで色んな変化が表れるんです♪

- きれい
- 安全
- 効率アップ
- やる気アップ

そんな５Ｓは、国際協力の分野でもアフリカの保健医療や病院を支援する活動の中で役立てられています。医療の質を良くする、安全性を高める、といった大きな目標をストレートに掲げるよりも、誰もが心地よく感じる病院にしようと少しずつ整理・整頓を協力して行う方がスタッフ自身がメリットをより感じられるため、５Ｓは受け入れられやすい手法なのです。

病院での５Ｓ導入は次のように進められます。アフリカでも１と２は短期間に達成されていますが、４や５は病院内の雰囲気や文化を作り上げることによって実現するのでそれなりの時間と労力が必要になります。各病院で、成果を発表し合う機会を設けたり、努力したスタッフを院長が表彰するなどの工夫によって推進力を高めています。

1. 整理
   病院内の各部門から不要品を集めて、廃棄・使用・修理の３つに仕分けします。
2. 整頓
   色分けなどの分類手法で必要なものを使いやすく片付けます。
3. 清掃
   各部門の全員参加で病院内を磨き上げます。
4. 清潔
   １～３がすべての部門で繰り返しできるような手順を共有します。
5. しつけ
   各部門の全員が自発的に５Ｓを実施できるように習慣化します。

日本発、世界で生まれる新しい価値

日本からアドバイザーとして派遣された池田さん（歯科医師・NCGM 国際医療協力局の専門家）は、５Ｓの導入後わずか１カ月で職場が働きやすくなったと参加者自身が実感する様子をたくさん見てきました。「１つ１つの変化は小さなことですが、成功体験なんですね。この積み重ねが参加者のモチベーションを高めてくれます。」

職場が働きやすくなり、医療スタッフに余裕ができることにはさらなる利点があるそうです。「患者さんをケアする時間が増えるので、例えば陣痛に苦しむ女性にしっかり寄り添えるようになります。これは結果的に医療ミスを減らすことにもつながるんです。」

池田さんは、５Ｓは「命を守るライフスキル」だと言います。よく手を洗うことで感染症予防になったり、周囲が片付いて転倒によるケガが減ったりと、身を守る習慣ができるから。日本から世界へと渡り、アフリカで新たな価値を見出され発展する５Ｓ。整理・整頓の奥深さをアフリカの人たちが私たち日本人に再発見させてくれます。

世界に広がる 5S
アフリカの病院が変わった！

日本発の経営管理手法「5S」が今、アフリカ大陸の各地の病院に広まっています。もともと製造業の生産過程の課題解決のために生まれた「5S」は、どんな風に遠く離れたアフリカに渡ったのでしょう。なぜ病院というまったく異なる業種で導入されているのでしょう。「5S」は、アフリカの医療現場の何を変えたのでしょう。

★　アフリカの医療の現状　★

多くの開発途上国では、十分に保健医療が提供されないために妊娠・出産で命を落とす女性や生まれてすぐに亡くなってしまう赤ちゃんがまだまだたくさんいます。アフリカ諸国も安全で質の高い医療を国民にきちんと行き届かせるにはどうしたらよいかという課題に直面しています。

★　例えば、どんな課題？

1.　圧倒的に資源が足りない

治療が必要な患者さんの数に対して、医師や看護師などの医療人材、薬、診療施設、情報が質・量ともに足りていません。それらが揃っている数少ない病院も都市部などの地域に偏っていたり、一部の富裕層が対象となっていて貧困・中間層の人々には受診する機会が与えられていなかったりします。

2.　医療機関に行く手段がない

地域によって医療施設が限られていて、利用できる施設まで距離がある上に、道路などのインフラ整備が十分になく受診できない環境にある人がたくさんいます。

3.　お金が足りない

政府から各地域の行政や医療機関に十分な財源が配分されず、国民に十分な医療を提供することができません。

5S 導入前の病院にて
A: ゴミ捨て場　B: 薬品保管室　C: 車椅子置き場

4. 医療スタッフにやる気がない

医師や看護師などの医療スタッフは、人・モノ不足などから患者さんに適切な診療ができないため、やる気を失ってしまいます。多くのスタッフは安月給で働いていて、業務への責任感も薄れてしまいます。

5. 医療施設がきれいじゃない

人・モノ・カネの慢性的な不足から医療スタッフが無気力になり、医療施設を清潔で安全な場所に維持できなくなってしまいます。病院が臭くて汚かったり、カルテや薬品が乱雑に散らばっていたり、劣悪な環境になります。

6. 患者さんへの理解が足りない

患者さんへの理解不足から思いやりを持って接することができない医療スタッフがいます。炎天下に待たせ続けたり、時には暴力を振るってしまったりするなど、患者さんの人権を大事にしない傾向があります。医療スタッフ、患者さんの双方がそういうものだと認識している場合も多いのです。

求められるのは、スタッフのやる気と医療の質

こうした課題から対策として見えてくるのは、スタッフのやる気と医療の質の両方の向上がポイントになるということ。アフリカ諸国の保健医療を良くするには、限られた資源の中で医療スタッフのモチベーションを維持しつつ、医療の安全性と質をどのように引き上げられるかが求められています。

★　日本からスリランカへ
スリランカからアフリカへ　★

はじまりはスリランカの病院

たくさんの課題を抱えたアフリカの医療に５Ｓの導入がさまざまな良い影響と改善をもたらします。でも５Ｓは日本からいきなりアフリカ大陸に渡ったわけではなく、始まりは南アジアの南東、スリランカ民主社会主義共和国でした。

スリランカの大都市コロンボにあるキャッスルストリート産科病院。年間１万 2000 件もの出産を安全に実施し、患者さんの信頼を得ている病院です。その背景には、2000 年から病院全体で取り組んで来た５Ｓがありました。

５Ｓが導入される前は、この病院もまた、多くの開発途上国と同様に清潔さに欠け、荒れ果てた施設でした。人・モノ・金のすべてが慢性的に不足しているにも関わらず、地域社会からの医療の必要性は高まり、一方で医療スタッフは投げやりな態度で勤務するという悪循環に陥っていました。

そんな困難な状況で、院長は今ある限られた資源を有効活用して改善できないかと考え、当時のスリランカ国内の製造業で導入されていた５Ｓに着目しました。少ない予算で問題を解決するには、医療スタッフの意識を前向きに変え、患者さんの視点に立った医療を提供できるようにしようと考えたのです。

５Ｓを導入し、医療スタッフが共通の目的意識を持ち、チームワークで自発的に問題解決に取り組みました。その結果、働きやすく、やりがいを感じる職場へと変化し、スタッフは自信を持ち、患者さん志向の医療が提供できるようになりました。

スリランカのキャッスルストリート病院の成功は、アフリカ諸国の病院スタッフに「お金をかけなくても自分たちが頑張れば良くなるかもしれない！」という希望を与えるものでした。日本発の５Ｓはスリランカで成功を収め、アフリカの国々へと広がっていきました。

スリランカの病院を見てきました！

みんなで毎日５分ずつコツコツと整理・整頓をしてきれいになったスリランカの病院を見て来た木多村さん (医師・NCGM 国際医療協力局 専門家)。そこでは、医療スタッフも患者さんもいつも笑顔だったのがとても印象的だったそうです。「1 つの部署がきれいになると、私たちも頑張ろう！と５Ｓの輪が広がっていくんです。」だから笑顔も広がっていくのでしょう。

アフリカの病院に伝わる５S

スリランカの成功例に学び、アフリカ53カ国の約３分の１にあたる15カ国の医療施設に次々と5Sが導入され、多くの成果を上げています。NCGM国際医療協力局は専門家を派遣し、各国政府や医療施設の５Sの取り組みをサポートしています。

アフリカの国々は、陸続きではあっても、言語、宗教、文化、経済力などさまざまです。医療スタッフや物資の不足状況も財務状況も国によって差があります。また、植民地時代を経ている歴史的背景から、変革に対して受け身になりがちであるとも言われます。そんなアフリカの国々で、５Sはなぜここまで広がり、受け入れられたのでしょう。

５Sが広まる以前、多くの先進国や援助団体がアフリカの病院の援助を行いましたが、その期間に成果が出ても、終了して撤退すると状況が後退するという繰り返しが起こっていました。５Sは、そうした援助とは質が異なり、病院内で必要なものと不要なものを仕分け、ムダを減らし、きれいで働きやすい環境をみんなで生み出す活動であり、その成果が目に見えて実感できるものでした。そしてお金をかけずに全員参加型で自発的に取り組むことができるという点も５Sの特徴でした。アフリカの人たちが持っていた、「先進国のように資金やパソコンなどの高額で先進的な機器がなければ改革はできないだろう」という考えを変えるものだったのです。

５Sは、整理・整頓を行って病院がきれいになる効果だけではなく、その先にもっと本質的な効果をもたらすものです。病院スタッフの意識が変わり、組織全体が活性化され、患者さん中心の医療を提供することができる、経営そのものを大きく変えるものだったのです。

優しくなったセネガルの出産ケア

セネガル共和国では、貧困な地域の医療施設に５Sを導入し、妊娠・出産する女性と生まれて来る赤ちゃんが安全で適切な医療ケアを受けられるように改善するプロジェクトが行われています。

セネガルは、首都ダカールと地方とで医療施設や医療スタッフの数に大きな差があり、貧困な地域では妊産婦死亡率や５歳未満児の死亡率がとても高くなっています。助産師がいる病院も首都に集中し、産婦人科の医師も州に１人という状況です。医療スタッフが不足した地域では、マトロンと呼ばれる無資格のお産婆さんが日常的に出産を手伝っています。

NCGM 国際医療協力局の専門家は、同国の医療施設を調査してより良くするための活動を支援しています。

セネガル共和国

西アフリカ、サハラ砂漠最西端に位置する共和制国家。首都ダカールは、パリ・ダカールラリーの終着点としても知られる。国土19万㎡。人口1310万人。公用語はフランス語。主な宗教はイスラム教。

患者さんの不満点

- 医療スタッフが遅刻して長時間待たされた。
- 出産する時にお腹を押されて怖かった。

医療スタッフの不満点

- 人材とモノ不足でひどい職場環境。
- 医療の技術や知識を継続して習得する機会がない。

★　５S 導入前の困った病院

- ×　診察室前はいつも長蛇の列。
- ×　患者さんは炎天下で待たされる。
- ×　分娩室には悪臭。
- ×　ベッドの周りも汚れでハエが飛び回る。
- ×　定型的に強引な施術で出産させるので安全な正常出産ができない。

患者さんと医療スタッフの相互関係の中で作り出す新たな価値

患者さんと医療スタッフの双方が抱える不満を費用をかけずにいかに改善していけるかを、セネガル保健省やダカール大学の産婦人科、助産師協会とともに考えて行きました。例えば、患者さんの声を医療サービスに反映させる仕組みをつくる、医療スタッフに研修機会を与える、日々のケアの振り返りを行う会議を習慣化するなどです。出産時のマトロンについても、資格を持つ医療スタッフとマトロンのチーム制を導入し、より安全で情報共有のしやすい対応を可能にしました。そしてこれらのベースには５Ｓによる職場環境改善がありました。

その結果…

- 毎朝の掃除で病院がきれいになった！
- よく使う医療機器が定位置に置かれるようになった！
- ムダな作業時間が減った分、医療スタッフが患者さんに寄り添えるようになった！

↓

90% の女性利用者が医療サービスに満足♥

さらに大きな変化は、患者さんからの感謝の声が増え、医療スタッフのやる気が自然とアップしたことです。５Ｓの取り組みが、患者さんと医療スタッフの双方が満足できる価値を相互関係の中で作り出す過程になっているからでなのでしょう。

５Ｓの現場から

クリエイティブなセンス

「アフリカの人たちは発想力が豊かで色使いのセンスも抜群」と話す木多村さん（医師・NCGM 国際医療協力局の専門家）。５Ｓ活動でも、歌や劇を作って５Ｓを広めたり、国旗カラーを取り入れた色使いでファイルを整理したりするそうです。その作業を皆で一緒に運動のように実に楽しみながら自発的に取り組みます。「だから長続きして、効果も出て、もっと頑張ろうと思えるようになるんですね。５Ｓの醍醐味だと思います。」

広がる５Ｓ　アフリカの病院が変わった！

きれいになったコンゴ民の病院

コンゴ民主共和国は、天然資源が豊富で、９カ国に隣接して囲まれていることもあり紛争が絶えない国。傷ついて医療を必要とする人も多い情勢で、病院は自主経営、国民は医療費を自己負担しています。病院はいかに質の高い医療を低価格で提供できるかが求められますが、実際には予算不足で劣悪な医療環境が続いていました。

コンゴ民で開催された５Ｓセミナーの参加者

コンゴ民主共和国

中部アフリカ、赤道にまたがる共和制国家。天然資源に恵まれるが紛争と政治的混乱により長く経済が低迷してきた最貧国の１つ。首都キンシャサ。国土 234.5 万㎢。人口 6780 万人。公用語はフランス語。主な宗教はキリスト教。

その１つだった首都キンシャサにあるンガリエマ病院に５Ｓを導入しました。以前は、十分な給料が支払われないためにモチベーションの低い職員が多く、病棟には使われていない機材が放置され、カルテや薬品もきちんと管理されず、非効率な運営で患者さんが長時間待たされるという病院でした。

キーワードは「やれるところからちょっとずつ」

日本で５Ｓの研修を受けた院長は、倉庫だった建物を改修して「カイゼンホール」と名付け、各部門の成功例を共有する場を作りました。業務改善チームが立ち上がり、全職員が問題を発見し解決していく過程で士気も上がり、組織力が強化されていきました。病院が清潔になり、待ち時間が短縮されると、患者さんからの評判も徐々に良

くなって患者数と収入も増えました。その結果、新しい機材を購入したり、ボーナスを支給できたりと、病院の経営全体に良い循環が生まれるようになりました。

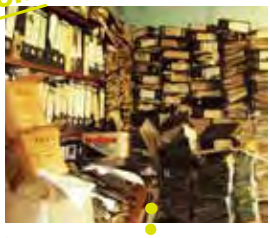
ンガリエマ病院の成功例はコンゴ民主共和国中に広がっています。質の高い医療の普及にはまだまだ時間と努力が必要だと言われていますが、５Ｓの取り組みという小さな一歩が今も争いの絶えない国の人々の命を守るアプローチとして選ばれているのです。

ンガリエマ病院の文書管理室メンバーと
派遣専門家の池田歯科医師（右から２番目）

なんということでしょう～♪

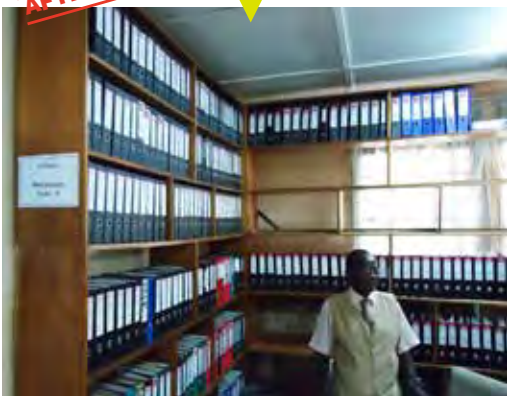
★　５Ｓを導入した病院のビフォー＆アフター

BEFORE



書類が積み上げられた
文書管理室が…

AFTER

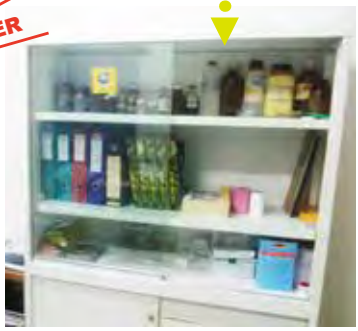


ファイルが並ぶ
スッキリした空間に！

BEFORE

診察台に乱雑に
置かれた薬品が…

AFTER



棚に片付いて
取り出しやすくスッキリ！

５Ｓを楽しむマダガスカルの病院

マダガスカルは、アフリカ諸国の中では珍しく地方にまで医師や看護師が配置されている国。各州で人材を養成していたからでもありますが、「生まれた場所で死んで先祖に加わる」という精神を持つマダガスカルの文化的な理由もあるそうです。

医療スタッフが国内に分散しているとはいえ、国は貧しく、治療可能な感染症の致死率や赤ちゃんと妊産婦の死亡率は高く、深刻な状況にありました。

貧困州の１つであるマジュンガ州の大学病院に 2000 年から NCGM 国際医療協力局の専門家を派遣して５Ｓを導入した改善を進めています。

当初は、州の基幹病院にも関わらず患者さんの診療情報と会計をきちんと把握できていない状態でした。治療費を言われるままに患者さんが医師に直接支払ったり、保管している薬品や医療用器具の紛失や盗難が起こったりすることも頻繁でした。

マダガスカル共和国

西アフリカ、マダガスカル島にある共和制国家。50 種を超えるサルやホシガメなど多くの固有種が棲息する。首都はアンタナナリボ。国土 58 万 km²。人口 2190 万人。公用語はマダガスカル語とフランス語。主な宗教は伝統宗教とキリスト教。

▲ 病院の庭先にある５Ｓの木

みんなで積極的に楽しく変える！

５Ｓの導入にあたり、中心となって取り組むチームを結成し、各部門の整理・整頓を指導し、進捗をチェックし、ミーティングを開いて情報共有を行いました。チームはお揃いのＴシャツを着たり、５Ｓの意味

◀ ミーティングでチームワークを確認

を歌にして院内のイベントで踊ったりと、誰もが積極的に楽しんで取り組める工夫をして病院全体に５Ｓを拡大しました。また、院長もリーダーシップを発揮して、５Ｓが進んでいる部門を表彰するなど、活動が継続するように取り組みました。

導入後、病院は短期間で清潔になり、患者さんの外来受付から診療までのルートも見直されました。「受付科」が新たに設置されて、職員が口頭で説明するだけでなく、患者さん自身が行き先が分かるように案内図や表が掲示されるようになりました。カルテも各科に分散していたものが１カ所で管理されるようになりました。

▲ 自作の５Ｓソングを歌うスタッフ

お揃いの５Ｓ-Ｔシャツ ▶

◀ 入院患者の投薬管理表
色分けして誤投与や未投与を防止する

▲ 番号で整理されたカルテ

マジュンガ大学病院では、厳しい経済状況にあっても、既存資源を最大限に活用して、みんなで楽しく取り組む５Ｓが今も実践されています。医療スタッフのモチベーション向上は患者さん中心の医療への意識改革にもつながります。きっとこれからもっと医療の質も良い病院に変わっていくことでしょう。

５Ｓの現場から　「病院の質」

今から 13 年前、マダガスカルの病院にアドバイザーとして赴任した池田さん (歯科医師・NCGM 国際医療協力局の専門家) が現地の医療スタッフに「“ 病院の質 ” とは何でしょう」と聞いた時、彼らの多くは「治療の前にまず清潔であること」と答えたそうです。その７年後、同病院にも５Ｓが導入されることになり、池田さんは、以前のやり取りを鮮明に記憶しているスタッフたちに再会しました。再会は、彼らにとって願いだった ” 清潔な病院 ” を実現するためのツールとの出会いにもなりました。

みんなで少しずつだから頑張れる！

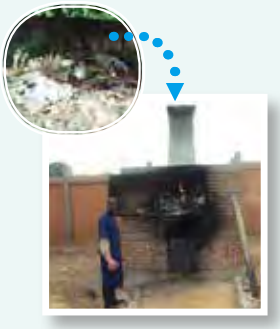
アフリカで見つけた5Sの工夫

病院の待合室の座席。
先に来た人から順番に並んで座ります。無秩序に集まっていた患者さんを順番にスムーズに診療できるように変わりました。

薬品の表示。
間違わないように何をいつ使用するか、実際の容器を掲示するようにしました。

医療スタッフの白衣。
ぐちゃぐちゃに山積みになっていた白衣を担当ごとにラベルがついたフックにかけて着用しやすくしました。

廃棄物の分別。
病院にはさまざまな種類の廃棄物が出ます。衛生管理の上でも処分方法は重要。何をどこに捨てるのかを表示して分別できるようにしました。



ごみの焼却。
敷地内に無造作に捨てていたごみを分別した後、焼却処分するようにしました。

患者さんと医療スタッフが向き合う受付。デスク周りを整理し、座席に番号をつけて患者さんが順番に並べるようになりました。

リサイクル品回収ボックスの設置。
まだ使用できるファイルやノートなどをリサイクルするために箱を置いて回収するようにしました。

ニッポンに 5S 学びに来ました。

アフリカからの研修員のための
5S研修

NCGM国際医療協力局では、5S導入による改善に取り組むアフリカの医療施設を支援しています。現地に専門家を派遣し、直接アドバイザーとして協力するだけでなく、日本に各国の医療スタッフや行政官を研修員として受け入れ、5Sを用いて医療施設の機能を改善し、保健医療サービスの質と安全を向上させるための研修機会を提供しています。毎年、モロッコ、ベナン、ブルキナファソ、コンゴ民、セネガル、ブルンジ、マリ、ニジェール、マダガスカルなど、たくさんの国から研修員が自国の課題解決への想いを胸に来日しています。

研修員は、講義やワークショップを通じて5Sの知識や技術の理解を深め、その上で自国の病院マネジメントの課題を発見する力や、5Sを用いた活動計画の策定方法、必要となるリーダーシップを習得していきます。また、他国の導入事例の考察や、日本国内の医療施設などの視察も行い、自国での5S導入に向けた実践力を養成しています。

グローバルヘルス・カフェ

CAFE WORLD

国際医療協力局のラジオ番組【グローバルヘルス・カフェ】で、マスターがおススメした各国の珍しいコーヒーをご紹介します。

ベトナム

品種：ロブスタ種

フランスの植民地であったことから、深めに煎った豆を、アルミニウムやステンレス製のフィルターでゆっくり抽出するフランス式の入れ方。強い苦みがあるため、コンデンスミルクを入れたカップに注ぎ入れ、カップの底の甘いミルクを溶かしながら飲むのが一般的です。

ボリビア

品種：ティピカ種

南米大陸のほぼ中央に位置するボリビアは、ブラジルとペルーに挟まれた内陸地で、国土の３分の１がアンデス山脈。コーヒー栽培で評価が高い産地コパカバーナが有名。水を張った桶にコーヒー豆を入れて果肉を腐らせ、コーヒー豆となる種を取り出し、天日干しにするという製法で作られます。

フィリピン

品種：ロブスタ種

かつて世界第４位をほこる生産国だったフィリピンには、アラミドコーヒーと呼ばれる珍しいコーヒーがあります。精製の仕方が独特で、コーヒーの実を食べたジャコウネコから排出される糞から、未消化の種子（コーヒー豆）を取り出すというもの。その豆を浅く煎ると、腸内細菌による発酵によって独特の風味が加わり、薫り高いコーヒーが味わえます。
産出量が少ないため、たいへん希少価値が高く、世界一高価なコーヒーとも言われています。
インドネシア産のものは『コピ・ルアック』と言われます。

マダガスカル
品種：ロブスタ種

アフリカのインド洋に浮かぶマダガスカル島。ここでは、コーヒー豆をフライパンなどで煎り、その豆を臼で砕きます。その作業は全て手作業。そして水草で編んだ籠で濾して飲みます。

【栽培品種】

ロブスタ種
主に熱帯低地で栽培され、病害虫に強く、成長が早いために生産性に優れている。
独特の苦味と香りがあり、インスタントコーヒーなどの工業用コーヒーに用いられることが多い。

ティピカ種
長形の豆で優れた香りと酸味を持っているが、サビ病に弱く、多くの日陰樹を必要とし、収穫が隔年であることなどの理由のため、生産量は低い。

放送継続決定！！

ラジオNIKKEI

グローバルヘルス・カフェ

コーヒーの香りが漂う、とあるカフェを舞台に、世界の健康問題についてマスターと常連客が語り合う…　第４回の放送を終え、今秋、新たにグローバルヘルス・カフェがスタートします！詳細は、決定次第ウェブサイトなどでお知らせします。乞うご期待！！
また、カフェマスターの途上国の思い出『Master's memory』もウェブで是非 Check ！！
詳しくは HP へ
www.ncgm.go.jp/kyokuhp/

海外からの便り

マダガスカルのハンドメイド

from
木多村知美
医師・NCGM 国際医療協力局 専門家
マダガスカルで小児保健に関する研究を行う

handiworks in Madagascar

手作りエコマット

今週の調査は 3 人だけの小さなチームで行ったので、村のホテルに泊まれました。宿のマダムが手作りしてくれた、ペットボトルのキャップをリサイクルして作ったマット。とてもおしゃれでした。色使いも勉強になります！

デコ・メーター

村での調査で、子どもたちが必ず泣いてしまうのが体重測定。日本でも健診の際に泣く子はいますが、マダガスカルの子どもの方がより泣いてしまう気がします。理由を調査員さんたちにも聞いて考えてみたものの、良い知恵は浮かばず。とりあえず「体重計が可愛くないからいけないのかもしれない」と思い、マスキングテープとシールでデコレーションしてみました！マダガスカルの強い日差しの下では派手に見えないのですが、それでもデコなし体重計（右下写真の右端）よりは…。
親しみがわいて泣く子が減るといいな。

weight check

何キロあるかな？

マダガスカル共和国の基本情報は 16 頁へ

NCGM 国際医療協力局では、保健医療分野の国際協力活動の充実等を目的とする寄附のご協力を皆さまに広くお願いしております。

開発途上国の人々の健康を守るための事業（技術協力、人材育成、研究など）にご理解いただくとともに、ご支援をお願い申し上げます。

電話、メール
ハガキ等で
ご連絡

活動内容と
手続きの
ご説明

ご寄附

ご連絡先

電　話：03-6228-0327（内線 2716）
E-Mail：info@it.ncgm.go.jp
郵　送：〒 162-8655
東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター
国際医療協力局　寄附担当

EVENT INFORMATION

参加無料

国際保健基礎講座 2013

「国際保健」「国際協力」って何だろう？

現場で活躍する国際協力の専門家と一緒に開発途上国の健康問題を学ぼう

国立国際医療研究センター　研修センター 3F　にて開催

第5回 途上国のHIV/エイズ治療はどうしている？

平成25年9月28日(土) 13:00〜16:00

世界のHIV/エイズ患者の6割以上がアフリカに集中している。
ザンビアでのHIV/エイズプロジェクト活動から、
途上国でのHIV/エイズ治療を考えてみよう。

第6回 ジェンダーを考えてみよう！

平成25年10月26日(土) 13:00〜16:00

ジェンダーとは、社会的・文化的な意味での性別のこと。
ジェンダーとしての女性は、世界中のほとんどの社会や文化
において、社会的弱者・支配される側の立場にある。
国際保健の分野で、ジェンダーに対してどう取り組んできたか？
今後の課題について学んでみよう。

NCGM 国際医療協力局
ホームページ「イベント情報」
よりお申し込み受付中！

www.ncgm.go.jp/kyokuhp

事務局
国立国際医療協力センター
国際医療協力局　研修企画課
TEL: 03-6228-0327(内線 2717)
Email: kensyuka@it.ncgm.go.jp

NEWSLETTER summer 2013

2013 年 8 月 31 日発行

国立国際医療研究センター 国際医療協力局
National Center for Global Health and Medicine
Bureau of International Medical Cooperation

〒 162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
tel: (03)3202-7181 fax: (03)3205-7860
info@it.ncgm.go.jp
www.ncgm.go.jp/kyokuhp/

編集・制作　下部純子 吉田美智代